

孤立死をなくすために 座談会

たすけあう地域づくりを目指して

「ひとり暮らし高齢者の見守り」「孤立死を防ぐために」をテーマに見守り活動を行っている方々に参加いただき、それぞれ活動をとらして地域の見守り体制の強化について座談会を開催いたしました。

出席者の紹介

谷口 修好 さん／配食サービスボランティア
 渡邊 フミ さん／福祉委員
 坂本 光 さん／札幌ヤクルトセンターマネージャー
 佐々木奈美江さん／愛の訪問サービス担当者(ヤクルト)
 藤原 徹 さん／社協事務局

谷口さん 平成23年10月より配食サービスのドライバーをしています。民生児童委員の委嘱を受けています。

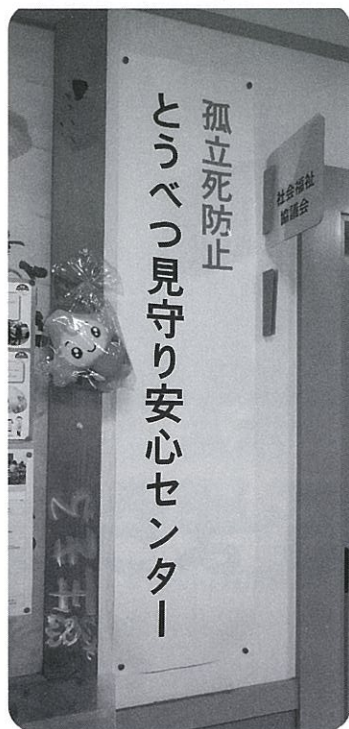
渡邊さん 東町町内会で福祉委員をしています。3年半活動をしています。東町町内会は福祉委員が2名体制で見守り活動を行っています。

佐々木さん ヤクルトの職員としては、10年を過ぎました。愛の訪問サービスを担当し、当時より担当範囲が広まり利用者が多くなってきています。

坂本さん 札幌ヤクルト販売株式会社当別センターを担当しています。4名のヤクルトレディーとともに活動しています。

社協の取り組みについて

藤原



「とうべつ見守り安心センター」を平成24年12月から実施。市内の事業所等や町内会・自治会と連携し、住民が何らかの異変を察知した場合、社協に連絡していただき、状況を確認する事業を行っています。10月末現在32件の通報をいただいています。

また、平成23年7月から実施しています「救急医療情報キット」は、あらかじめ救急時に必要な情報をキット

の中に入れ、キットの情報を基に迅速な救急活動に役立たせます。10月末現在24件の使用報告を消防署より連絡を受けています。

見守り活動について

谷口さん



ドライバーとして活動しています。利用者さんと接するのは、主に配食担当者ですが、訪問すると喜んでくれる笑顔がいいと感じます。私は木

曜日を担当しています。配食ボランティアの方々が活気にあふれ、ボランティアセンターの職員も明るく出迎えてくれ、気持ちよく活動をしています。長く続けるには職員とボランティア双方の繋がり、気軽に声を掛け合える雰囲気がか大事かと思っています。

藤原 利用者さんの印象はどうですか。

谷口さん 雪で玄関が埋まっている時は、玄関周りを除雪してお弁当を渡す場合もあります。

安否の確認は、空のお弁当で確認することができますが、たまに居ても出てこれない方がおられます。

利用者さんの元気な姿を見せたいと思います。

渡邊さん



東町は一人暮らし高齢者が多く、70歳過ぎていても仕事をしている方や60代の方でも閉じこもっている方もいます。福祉委員は2名いるので、

月1回訪問していますが、すべて回りきれない場合もあります。中には、話をしたい方がいて、訪問を楽しみに待っている方もおり、個別に訪問したりしています。また、常時見守りは難しいので、高齢者のいる隣近所の方にちょっと気にしてもらうよう声掛けをしています。何かあったら、町内会長や福祉委員、民生委員に連絡してもらうようお願いしています。住民からの連絡で、助けられることもあったり、支援に繋がったこともありました。

佐々木さん



愛の訪問サービスでは、月・水・金(3日間)を訪問しています。団地に住んでいる利用者で冬期間、ベランダから出入している利用者もいます。また、普段

会えている人が、その日会えずに何かあったのではと心配で、2回目の訪問の時、入院していたり、連絡がない方は、困ることがあります。また、人と会いたくない方は、次回訪問時にヤクルトを飲んでいるかを確認したりほとんど会えなかった方が、最近会うことができ、話を聞くと、元気で毎日出かけているという方もいます。また、家族に話すと心配されるので、話を聞いてあげることにより、安心される方もいます。

藤原 坂本さんは、当別町を担当していますが、他の市町村で同じような活動をしているところはあるのでしょうか。

坂本さん



他の市町村でも見守り活動をしていますし、当別町での見守り活動は、65歳以上のひとり暮らしの方々が対象ですが、ヤクルト株式会社

としては、お客様皆様とのコミュニケーションを大切にしていますし、ヤクルト事業全体で地域と協力して、見守り活動も含めヤクルトをお届けしています。

藤原 今回のテーマ「孤立死を防ぐ」「見守り体制の強化」についてですが、訪問していて、緊急に対応しなければならなかったケースはありますか。

佐々木さん 以前、具合の悪い方がいて、救急車を呼んだこともあったと聞いています。

谷口さん 民生委員として活動していますが、福祉委員と2カ月に1回見回っています。

農家の方が多くみなさん元気で過ごしていて、一人暮らし高齢者の方で、緊急の対応は、いまのところないです。

救急医療情報キット



藤原 配食サービスのボランティアは女性が多いですが、男性のボランティアさんを増やすためには何か良い方法はありますか。

谷口さん ボランティアしたいという男性はいると思うが、何かキッカケがあれば参加するのではないのでしょうか。男性が参加しやすいPRが必要だと思います。



配食サービス

藤原 社協としても様々な事業を行いながら、見守りの強化をしています。皆様から、今後、特に見守り体制を強化して行くためにはどのような事が必要でしょうか。

谷口さん 当別町の高齢化率は、年々上昇しており、今後見守りを必要とする方は増えると思います。配食サービスを利用していない方の見守りを「見守り安心センター」を軸として、地域単位(町内会)で情報を共有して、個人情報保護にこだわり過ぎず、助けるために情報を必要とする人には伝えて欲しいと思います。

渡邊さん サービスを利用出来ない方でも、多少負担してでも、見守られたい方もいると思います。色んなサービスの情報がわかれば、選んで利用する人もいるのではないのでしょうか。



また、団地は出入りが多いので、町内会長から連絡を受け、民生委員と訪問しています。情報を共有することが大切です。

佐々木さん 高齢者が多くなり、範囲が広がるとヤクルトの見守りだけでは、対応できなくなります。

様々なサービスや地域の方の見守りが大切です。

坂本さん 見守りを必要とする方が多くなると、現在のサービスだけでは難しくなります。複数の方々が連携して見守る体制をつくる必要があります。



愛の訪問サービス

藤原 皆さんのお話を聞き社協としてもきめ細かな見守りの体制づくりのため、地域住民、関係機関等と連携をし、身近なふれあい活動や地域住民が主体となった活動を重点的に実施し、支援の強化を町全体の取り組みとして、「地域の福祉力」を高めて行くことが必要と考えています。

最後に、皆様方の活動についてお礼を申し上げるとともに、今後も連携を深めて、事業の推進に努めさせていただきます。

